

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772800076		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 光風の家		
所在地	豊見城市字高嶺299-1番地		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4772800076-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で個人のペースにあった生活動作(食事の下ごしらえや調理への参加、洗濯物たたみ、掃除入浴などが自然に参加しやすい環境である。個人の希望やご家族の計画で外出や外泊を積極的に支援しています。医療面では主治医、受診病院は本人やご家族に選択していただくことができ継続的なケアの実施がおこなわれている。受診困難な方へは訪問診療を取り入れ主治医の診療をうけることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・玄関前の庭先で利用者の外気浴を支援し、歩行可能な利用者が日常的に「ちょっと散歩してくる」と職員に声掛けしている様子は施設生活を感じず、家庭生活の延長を実践している。・利用者の年齢や介護度は多様であるが利用者同士の会話や接し方が家族的で、職員は個々の利用者の特性を把握し、さり気なく寄添う介護を提供している。・当事業所は利用者の状態変化に伴う介護量を配慮したシフトや職員の体調や家庭状況に応じた就労を理解し働きやすい職場環境を提供している。・当事業所の運営推進委員である行政担当者は「外部評価の意義」を理解し、各委員や事業所職員に説明し運営に協力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年12月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した理念と利用者の権利は朝に復唱し1日のスタートとしている。	創設時職員全員で作成した理念を毎朝唱和した結果、現在は利用者も覚えて一緒に唱和している。管理者職員は「声なき声に耳を傾け…」の理念に共感し、日常介護で実感できる支援を提供している。理念は「お便り帳」に提示し理解を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は近隣住民の散歩コースになっており朝・夕の散歩時や買い物中も気軽に挨拶を交わすようにしている。	事業所には地域住民が散歩や野菜の差し入れで立ち寄り、保育園とはクリスマス・餅つき大会等や老人婦人運動会、地区敬老会に参加し友人や親戚等と交流を継続し、職員も行事の準備等に協力している。事業所主催でハブ摂りの講習会を開催した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校や中学校から職場体験や福祉体験を受けに行けることにより本人だけではなく、父兄、学校関係者にも認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実践している。ホームの現状では利用状況や・健康状況・地域交流状況などを報告し、意見や要望などを傾聴しアドバイスをもらうようにしている。	会議は2か月に1回定期的に行われ、利用者家族・担当課長・地域代表者が参加している。担当課長から運営推進会議に期待される役割と機能や改善すべき具体的取組みの説明や体験学習の学生と住民参加の合同防災訓練等や利用者の状況を報告検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	講演会等の情報を役場に提供したり、生活保護の申請や介護更新申請の手続き等で役場に出向き、担当者へ相談したり助言を受けている。	権利擁護・困難事例の受け入れ・ボランティアやサークル活動者の紹介を得たり、社協主催の老人婦人運動会や市主催の敬老会、包括主催の市内介護事業所の交流会等に参加し報告相談し連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針をホーム内に掲げマニュアルの整備や職員研修を実施するようにしている。外の門扉を含め玄関は解放し自由に出入りできるようにしている。	身体拘束に関しては重要事項説明書に明記し、入所時に利用者家族の理解を得ている。玄関前の広場で外気を楽しみ、利用者は「ちょっと出掛けてくる」と職員に声掛けして散歩を楽しんでいた。又行きたい所や好物の購入など気持ちや要望も支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴施行する際に介護者は不明な傷や打撲跡がないか細かく観察している。常に見過ごしがないように注意している。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてはグループホーム連絡会開催の研修などで学ぶ機会がある。成年後見人についてはご家族や関係機関を通じ書類などの申請が進められている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一ヶ月の利用料金や個人負担についての内容は細かく表示している。問い合わせに対して瞬時に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートをすることにより家族の声を外部へ表すことができたと思う。介護相談員を定期的に受け入れることで利用者の「思いや意見」を収集する努力をしている。	利用者の思いは日常生活の言動や表情仕草を観察し笑顔で楽しそうに活動している外出・買い物・行事等の活動内容や支援方法を職員で検討し、声掛けや介護手順を共有している。家族には面会やサービス担当者会議等で意見を把握し、帰宅や介護負担等の相談に応じている。	事業所内の行事や面会で家族の要望や意見を把握しているが、家族全員が集まる家族会を開催し、より利用者家族の要望に沿った運営を図りたいと、管理者職員は試行錯誤しており今後に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者にあつた1日の流れ(スケジュール)は常に利用者にかかわりある現場の職員の意見に耳を傾けるようにしている。	職員の意見は日常会話や会議で、カラオケのリスやリビングの配置変え等の提案や事例検討で共通認識を深めている。職員の習字・大正琴・ハーブ療法の特技を支援に活かし、状態変化時の過重労働には増員等の対応や個別のシフトも配慮し働きやすい職場環境を協力合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	顧問の社会労務管理士に労働基準法などは管理してもらっている。休日や年休は事前に希望表を作成しほぼ希望どおりにとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の状況をみてできるだけ研修などへも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ定期的に管理者会議が行われ情報交換が行われている。その中で勉強会や研修などが行われている。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	すぐにサービスを開始するのではなく事前調査したり、本人の状態、本人の生活の場面に的しているか体験入所などを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	他族の意向や要望などを伺い、ささいな事でも傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各居宅や役所、包括とも相談。グループホームへの入所が必要ならば協力し対応。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中にも教えていただくという場面をつくり三味線やあみ物などを一緒に行っている。常に感謝の気持ちと人生の先輩であることを意識し関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは散髪などをお願いしたり、本人が喜ぶからと三味線やハーモニカ演奏でボランティアして下さるご家族もおり本人との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭行事へ参加しやすいよう送迎の手伝いなどをし家族や親せき、馴染みの場所などへの関係が途切れないように努めている。	利用者は家族の行事や孫・曾孫の運動会・学芸会に参加している。地域の知人友人との交流や、同級生が友人を連れて綱引き等の行事への誘いや訪問があり、馴染みの人や場所の関係を継続している。又利用者同士が手を繋いだり世話をしたりの交流を好み事業所内の馴染みの関係も構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関係は日々の申し送りで把握するようにしている。個別対応できる時間と支援内容を職員間で話し合うようにしている。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり契約が終了してもご本人への面会やその後の相談を受けたり関係がとぎれることなく継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント作成時に家族や本人から意向を把握したり、日頃の会話の中で意向の確認を行うことが多い。介護相談員の気付きなどにも耳を傾け利用者本位の希望や意向の実現に努めている。	利用者は「遣りたい事は沢山あるが家族の迷惑にならない様にしたい」と思い、家族は「いつまでも元気でいてほしい」と願い、好物の差し入れ等がある。介護費用の負担感を感じている家族もあり、自宅での食事や外泊等相談し負担の軽減を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力と理解を得ながら生活歴などを把握して。プライバシーに触れる際は個人情報からの視点から気をつけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の暮らしの現状把握については常に職員間でも情報を共有していると思う。例えば介護拒否される方への個人的な対応や声掛けの仕方など。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや担当者会議は定期的に行い利用者家族、職員間で話し合い計画を作成している。	担当者会議は状態変化時や更新時に行い、利用者家族・担当職員・ケアマネが参加し、ニーズに沿ったケアプランを作成している。モニタリング等は3か月に1回又は随時に担当職員が行い、経過録はサービス内容に沿って毎日記録し、ケアプランを意識した支援を提供できる様工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中でも日勤、夜勤、その他病院受診などを色分けで反映しその情報を職員間で共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診やご家族の対応が困難な事に関しては積極的に協力するようにしている。その他の外出支援なども同様。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館や無料で見学できる名所、旧跡、平和通り商店街、なじみの店などへも出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院はほんにとご家族の希望を優先にしている。又、必要であれば訪問診療を取り入れ適切な治療ができるよう支援している。	利用者家族が希望するかかりつけ医に受診し、4名が訪問診療を受けている。受診時は家族対応しているが、要望により送迎や付き添い支援している。受診時は、家族が主治医に口頭で情報提供し、家族の報告や主治医から電話や文書で確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな情報や気づきは協力医療機関の担当看護師を通じ医師へ報告し相談できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療計画を把握すると共に入院前の生活に戻れるよう支援している。職員交代で食事の介助へ行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の現状を説明した上で関係者を含めて統一した方針を契約書に記載し入所契約時に確認してもらっている。現在ホームでの看取りを希望されている方はいないが常に考えを伺うようにしている。	事業所の方針は契約書に記載し入居契約時や状態変化に応じて、事業所内で出来る範囲の重度化や終末期の対応を説明している。職員は研修会を通し理解を深めた。現在希望者はいないが、今後も、利用者家族の思いに添う支援を提供したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の実施している救急法や応急手当法の講習へ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーや自動通報装置設置。設備点検実施。地域の方との防災訓練した。	3月に同法人のデイサービスと合同にて自主訓練を行った。7月に昼間を想定し消防署立ち会いの下、避難訓練を行い、地域や推進委員・地域包括支援センター職員・家族の参加を得て、職員と地域住民が消火器の使用訓練を行った。夜間を想定した避難訓練は行われていない。	火災や地震等の災害に備え、早急に夜間の避難訓練を実施し、食糧や生活必需品の備蓄を揃えるよう期待する。

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗があったとしてもさりげない声掛けを心掛けている。	利用者一人ひとりの力が発揮できるよう、編み物や習字を行ったり、新聞や本を読む機会をつくっている。職員が利用者に対して一方的なアプローチにならないよう、利用者の表情や行動を観察するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや食事のメニューなど生活の場面において選択決定していただく場面をさりげなくつづけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じて突然の外出にも対応できるようにしている。会話や行動などで今何を求めているのかを感じ取り求める場面に近づけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が購入してくるヘアカラーを使用しホーム内で白髪染を行ったり、行きつけの美容室へ行かれる方と様々、髭剃り機を家族へ購入していただき毎朝自分で実施される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	車椅子でも座ってできるおしぼりたたみやお膳拭きなどをお願いしている。食後の後片付けや食器洗いな協力して行うようにしている。	利用者と職員は食材の購入に出かけ、日曜日・水曜日の昼食と夕食は事業所で調理し他の曜日は2階の法人から配食している。利用者はお膳拭きや食器洗い・後片付け等職員と行き、職員は利用者と食卓を囲み会話しながら同じ献立の食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	落ち着かない行動により食事が中断されてもすぐに下膳せずに次のタイミングを見計らい再度食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。口腔内のトラブルについては訪問歯科の医師と相談している。		

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表へのチェック表を活用している。着脱もすべて職員が行うのではなく自尊心を損ねないように気を付けている。	利用者の排泄パターンは排泄管理表で把握し日中は全員トイレ誘導している。職員が介助しすぎないように出来る部分は利用者が行う自立支援を取り組み、排泄介助時の職員の立ち位置もプライバシーに配慮している。又排泄用具(パットの種類やサイズ等)も個別検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌ドリンク(ヤクルト)やヨーグルトブルーベリージュースなどを取り入れるようにしている。トイレへ誘導した時は腹部マッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日越しの入浴であるがその方の入浴パターンを把握し希望や必要時には対応するようにしている。	基本的な入浴日は決まっているが、毎日入浴や入浴時間は利用者の希望に沿っている。浴室と脱衣所は引き戸とカーテンで仕切り、ヒーターや扇風機を使用し温度調節し冬場は足浴で暖気と清潔の支援をしている。現在入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間自然に入眠につながるように日中の活動積極的に促している。就寝の時間を厳しくせずテレビを見たり眠れない方とは話相手になって昔話などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬事書を綴り目的、用法、副作用などを理解している。解らないことがあれば近所の薬局から説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話や家族からの情報を聞き入れ本人のできること探しを行っている。大正琴や習字カラオケ、パットゴルフなど。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間帯によって不穏症状が強くなる方には、ドライブや、散歩などを日常的に行っている。	スーパーへ食材の買い出しに出かけたり、散歩で近くの自動販売機で飲み物を購入する方もいる。お魚センターや奥武島の天ぶらを楽しみにドライブへ出かけている。娘さんと県外へ家族旅行へ出かける準備等の支援を行っている。	

沖縄県(グループホーム光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方は1人。小さな財布に小銭ていど。週1回訪れるパン屋さんを楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほぼ希望どおり連絡できるようになっている。家族も理解し協力的である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	会話中の声のトーンや話題にも気を付けるようにしている。	玄関先にソファーを、野外にはベンチを設置し、散歩の前後で一休みしたり、一人になりたい方の居場所として活用している。共用空間は自然の風が通るよう配慮し、壁には行事の写真が掲載され、ソファーの配置も動線や好みの場所で居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチを置いたところ独りになる時間を作ったり気の合う者同士で会話をするようになった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類などより家庭に近い雰囲気を出す為持ち込みをお願いしている。居室は各々の好みで飾りつけなどをしている。希望で畳を敷いている方もいる。	居室は洋室であるが、2部屋は家族の希望で畳を敷き、和室に変更し訪問時に寛げるようしている。タンスや椅子等は利用者家族の使い慣れた物を持ち込み、ADL状況に合わせて家具の配置をし家族写真を飾り、好みのカーテンを購入し使用している。居室の清掃は、職員と一緒にを行う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりのカレンダーをめぐってもらえるように目線の位置に置いたりしている又、自ら水分補給ができるようキーパーを準備している。		